

第2節 すべての人をやさしく見守る社会づくり

“絆”（きずな）をつなぐ ～わたしからみんなへ、互助・協調のネットを織りなすために～

少子・高齢化が進展する中で、だれもが健やかに年を重ね、子どもを生み、育てていくことのできる環境、高齢者や障害者が安心して暮らせる環境をつくっていくことがますます重要になっている。

毎日の生活をやさしく、豊かなものにしていくためには、人と人のかかわり合いは欠かすことができない。このため、家庭・家族、地域、職場など、毎日の暮らしの中で、人と人の絆、縁を大切にし、絆が一人ひとりを育てるような社会を築き、本県の美しさを支えていくことのできる、「すべての人をやさしく見守る社会づくり」を目指す。

そこで、一人ひとりが自立し、相互にかかわり合い、連携し合いながら、家庭や学校、地域が連携して、子どもが伸びやかに育ち、高齢者や障害者が自立しながら、必要に応じて様々な人から十分な支援を受けられるような社会を築いていく。

さらに、少子化が進む中であって、子どもを生み、育てることが、親はもちろんのこと、社会全体にとっての喜び、楽しみ、学びの機会となるような仕組みを築いていく。

このように、すべての人々が共に助け合うことにより、地域社会の中に多様な絆が織りなされる、互助・共生の社会づくりを進めていく。



1 安心して子どもを生み育てる環境づくり

課題と目指す方向

国立社会保障・人口問題研究所の平成14年1月人口推計（中位推計）によると、総人口に占める年少人口の割合は、2001年の14.4%から2025年には11.6%に減少するとともに、高齢化率は18.0%から28.7%に増加すると予測されている。少子高齢化の進行は、経済成長率の低下や社会保障の分野における現役世代の負担の増大、社会全体の活力の低下など、社会全体に様々な影響を及ぼすものと懸念されている。

少子化の要因としては、未婚率の上昇や晩婚化、夫婦間の出生児数の減少などが挙げられており、その背景としては、都市化や核家族化等の下での出産や育児に対する不安感や負担感、子育てと仕事の両立の困難さ、経済的な負担感などが指摘されている。

今後到来する超高齢社会を前にして、次代を担う子どもたちを社会全体で健全に育成することが、我が国の維持・発展にとって不可欠なことであり、我々の使命でもある。

取組の方向

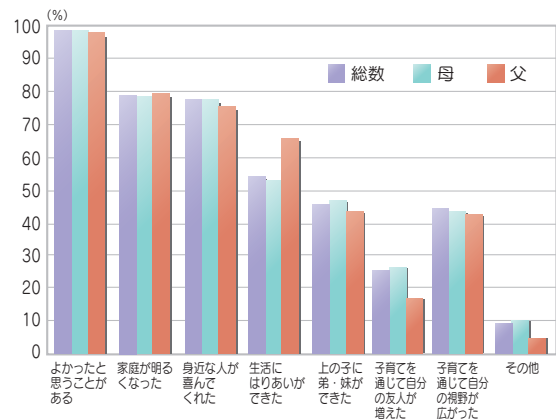
○地域における子育て支援体制づくり

核家族化の進展などにより、子育ての不安や悩みを地域の人や家族などに相談することが困難になってきているため、育児に関する学習や相談に応じたり、急な用事の際に一時保育を行うなど、多様な子育てニーズに対応できる地域の子育て支援体制を整備していく。

そこで、子育てを男女が共に担い、安心して子育てができるように、多様な子育てニーズにこたえられる保育サービスの充実や男性の育児参加を促す施策など、子育てを社会全体で支えていくようなシステムづくりを進めていく。

これらの取組により、家庭において親子が幸福感を共有し、信頼という心の絆をはぐくみ、子どもたちの笑顔と歓声が絶えることのない地域社会となるよう、安心して子どもを生み育てることができる環境づくりを目指す。

子どもを持ってよかったと思うこと（複数回答）



注：総数には父母以外が回答者となっているもの及び回答者不詳を含む

資料：厚生労働省「21世紀出生児縦断調査」（2001年）



地域子育て支援センター（栃木市）

- 児童館、放課後児童クラブなどにおける子育て経験者やボランティアによる子育て支援
- 子育て家庭の身近な交流の場（子育てサロン）の設置促進
- 地域における子育て支援ネットワークの確立や、ファミリーサポートセンターの設置促進

など

○育児等に関する教育の充実

次代を担う世代が、命を伝えていくことの大切さ、子育ての喜びや楽しさなどを理解し、新しい命をはぐくもうという気持ちを持てるようにするため、子どものうちから、出産や育児に関する正しい知識を教えるとともに、家庭や家族というものに夢を持てるよう、幼児期、学齢期、青年期における教育の充実を図っていく。

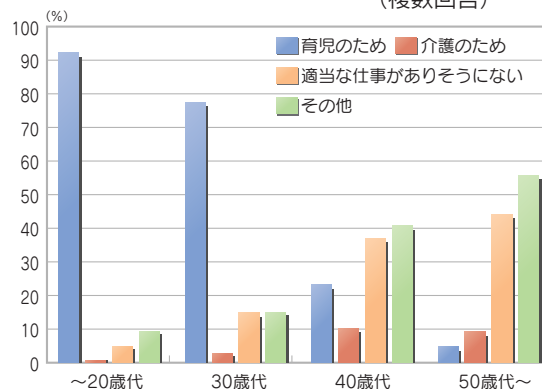
- 家庭や家族に関する教育の充実
- 保育体験等の充実
- 正しい性教育の積極的な展開

など

○子育てと仕事の両立支援

多様なニーズにこたえることができる保育サービスの充実を図るとともに、男女を問わず育児参加を促進するため、国・県のみならず、市町村、地域、民間企業が一体となった取組を推進していく。

就業希望の母親が仕事を探していない理由
(複数回答)



(備考) 1: 厚生労働省「平成12年 国民生活基礎調査」により作成
2: 「その他」には、「育児・介護以外の家事のため」、「健康に自信がない」、「その他」の回答を含む

資料: 厚生省「国民生活基礎調査」(平成11年)を基に作成

- 保育施設の適正配置と多機能化の推進
(運営主体の弾力化、保育時間の多様化、利用対象の拡大、送迎における利便性向上)
- 幼稚園・保育所の機能統合
- 育児休業制度の充実 (*パパ・クォータ制等の検討)
- *フレックスタイム制度、在宅勤務制度、*ワークシェアリング等の導入

など

○子育て家庭の経済的負担の軽減

子育てに要する費用は、出産から教育まで、以前と比べ家計の中で大きな部分を占めるようになっており、その負担感のために子どもを持つことをためらう家庭も多い。

子どもは社会の宝であり、子育てを社会全体で支えていくという理念の下、子育ての経済的負担の軽減のため、様々な角度からの支援の充実を図っていく。

- 育児休業期間中における所得保障の充実
- 児童手当制度の充実
- 保育料負担の軽減及び負担方式の変更

など

【パパ・クォータ制】 P.143のコラム参照。

【フレックスタイム制度】 1カ月以内の一定期間の総労働時間をあらかじめ定め、労働者はその範囲内で、各日の始業・終業時間を自分で決める制度。総労働時間を超えた分が残業になる。

【ワークシェアリング (work sharing)】 「仕事の分かち合い」。一人ひとりの労働者の労働時間を短縮することにより、全体として雇用者数の維持・増大を図ろうとする考え方。

2 家族をやさしくつつみこむ社会づくり

課題と目指す方向

近年、配偶者等による暴力（ドメスティック・バイオレンス＝DV）や児童虐待などが大きな社会問題となっている。これらの問題の背景としては、地域の連帯感や人間関係の希薄化、社会生活上のストレスの増大などから家族機能がぜい弱化するとともに、地域社会が有していた相互扶助機能が低下し、「家庭の孤立化」が進行していることなどが指摘されている。

DVや児童虐待は、家庭内という密室の中で行われる犯罪行為で、被害児・者の心に深い傷を負わせるものであることから、その未然防止とともに、早期発見、早期対応を図ることが重要である。

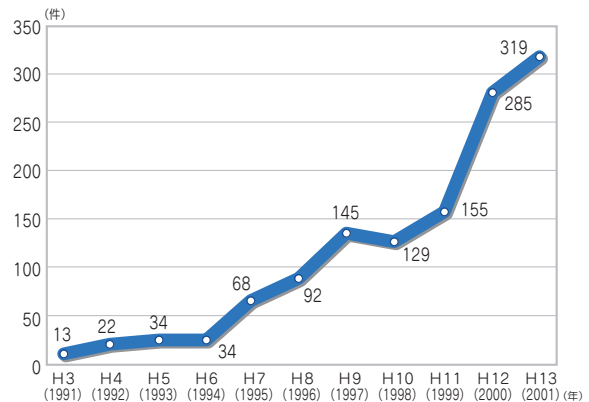
これらの未然防止の面では、家庭、学校、地域において、人それぞれの人格を尊重することの重要性を再認識できるような教育的取組や普及啓発活動の充実が求められる。

また、DVや児童虐待が発生した場合の対応としては、被害児・者の身の安全を確保することを最優先し、危険な事態が予想される場合には、速やかに保護するとともに、正常な家族関係の回復を図るためにも、加害者に対するカウンセリング等の治療的アプローチや、被害児・者に対する「心のケア」が必要となる。

さらに、DVでは、女性が被害者となる割合が極めて高いことから、男女共同参画社会づくりや女性のエンパワーメントなどの取組も必要である。

このため、社会生活上の基本単位である家庭内の人間関係を見つめ直し、思いやりや助け合いの大切さ、そして、心の通う暖かさを実感できるような家庭づくりに向けて、地域ぐるみの総合的な支援体制の整備を目指す。

児童虐待相談処理件数の推移（栃木県）



資料：栃木県保健福祉部「福祉行政報告例」

取組の方向

○未然防止・早期発見対策の充実

DVや児童虐待の未然防止、早期発見に向けて、各種相談体制の整備充実など、地域社会が一体となって取組を推進していく。

- 配偶者暴力相談支援センターや児童相談所の機能充実
- 子育て支援のNPOなど民間相談機関による相談の充実
- 警察その他の公的機関と学校・自治会等の連携強化

など

○被害者の生活支援

身近な者に傷つけられた被害者の精神的なケアの充実のほか、被害者が加害者から独立した生活を目指す場合の支援を行う。

- 臨床心理士など専門家の活用
- 被害者の自立に向けた支援体制の整備
- 職業あつ旋制度などの活用

など

○加害者への対応

加害者に対しては一般の犯罪行為としての対応のみならず、家族関係の回復可能性も視野に入れた対応を進めていく。

- 臨床心理士など専門家によるカウンセリング体制の整備
- 加害者の意識改革・更生に向けての取組

など

3 高齢者や障害者などすべての人をやさしく支える社会づくり

課題と目指す方向

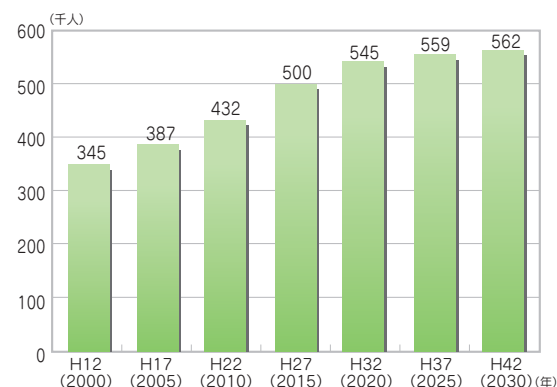
本格的な少子高齢社会を迎えるに当たり、年金、医療、介護、福祉等、社会保障のあり方が見直されているところである。このような中であって、個々の自立と社会参加を支援し、みんなが安心して生活できる社会を実現するためには、他人を思いやり、お互いを支え合う「互助」を基本とした地域社会づくりが求められている。

また、核家族化が進行する中で、高齢者世帯やひとり暮らし高齢者の増加が見込まれるため、緊急時の対応等も含めて、それぞれの人が住み慣れた地域で日常生活を継続できるような支援体制の整備や、生きがいづくりが求められている。

このため、多様なサービスの供給促進を図りながら、人と人、近隣の家庭同士のふれあいの絆を深め合いながら、地域における心の連帯感を強めていく必要がある。

そこで、地域で生活している人が、相互に支え合い、それぞれの年齢、健康状態、障害の有無や程度に合わせて、個々の生活パターンを尊重した支援を受けられ、社会においてそれぞれの能力を十分に発揮できるよう、地域内のサービス基盤の整備や人的資源・社会資源の確保等を図りながら、「人をやさしく支える社会づくり」を目指す。

老年人口の将来予測（栃木県）



資料：国立社会保障・人口問題研究所「都道府県の将来推計人口」（平成14年）

取組の方向

○ひとり暮らし高齢者、高齢者世帯の生活支援

高齢者が近隣との交流を持ちながら安心して快適な生活を送れるよう、それぞれが抱える様々な生活上の課題や日常生活をきめ細かくサポートできる地域ケア体制を構築する。

- IT活用による情報提供、緊急時連絡システムの開発
- ボランティアによる訪問、地域との交流促進
- 外出支援サービスなど生活支援事業の充実

など

○要介護高齢者等の様々なニーズに対応できる生活支援対策

要介護状態にある高齢者の様々な個々のニーズに対応できるよう、多様なサービスの供給促進を図る。また、それらのサービスに関する情報を必要に応じて利用者が入手し、それぞれの状況に合ったサービスを選択できるシステムを構築していく。



高齢者の介護

- 介護保険サービス基盤整備等の促進
- サービスの質の確保と利用者へのサービス情報提供システムの構築
- NPOなどを活用した移送サービスの構築

など

○高齢者の生きがいづくり

高齢者の学習活動や社会活動への参加は、健康維持や生きがいづくりに欠かすことのできないものである。しかし、現状においては、そのような場が限られており、活動内容もグループ活動の域を出ないものが多くなっている。

このため、高齢者が社会の一員として学び、働き、積極的に社会活動に参加していくことが可能となる機会の創出、充実と質の向上を進める。

- シルバー大学校の充実、遠隔学習機会の整備、卒業生の活用
- 老人クラブ活動やボランティア活動のネットワーク化の推進
- 各世代が交流できるイベント（文化・スポーツ等）の開催

など

○障害者の地域生活支援

障害者が家族と共に暮らしたり、ひとり暮らしをするといった形態で地域の中で生活していくため、個人の住宅環境の改善を始め、医療機関や福祉サービス提供機関等の地域バランスのとれた配置など社会環境の整備促進とともに、地域の人的サポート体制の充実により、障害者の地域生活等の支援促進を図っていく。



障害者によるワインづくり（足利市）

- グループホーム、福祉ホーム等の多様な生活の場の確保
- 地域生活支援サービス（ホームヘルプサービス、デイサービス等）の充実
- サテライトケア体制の整備

など

○障害者の就労促進

障害者が就業を通して自立することは、社会参加の中でも最も重要な要素の一つである。このため、働く意欲のある障害者が安心して働き、暮らせる環境の整備を進める。

- 障害者雇用率制度や企業に対する助成金制度の充実
- 障害者を雇用する企業からの物品調達の優遇

など

○互助による福祉

高齢者や障害者などすべての人々のニーズに対応し、地域の特性を活かしながら、共通の問題を解決していくためには、世代間、地域間の支え合いの輪を広げていくことが重要となる。

そこで、ボランティアやNPO、さらにはコミュニティの再構築などの住民参画を進め、「保健」「医療」「福祉」のサービスと住民の活発な活動を総合的にまとめた、有機的なネットワークを構築していく。



介護福祉士を目指しての実習（真岡北陵高校）

- 地域ケアシステムの構築
- 社会福祉事業従事者の確保及び資質の向上
- 福祉サービスの評価や内容の開示による利用者の適切なサービス選択の確保

など

○社会保障制度等の見直しと適正運用

少子高齢化の急激な進展に伴う現役世代の減少や、人口減少による社会経済の将来に対する不安の増大などにより、現在の社会保障制度の限界が指摘されている。

そこで、社会保障負担が勤労意欲や経済活力を阻害しない程度の水準で安定し、持続可能な社会保障制度を確立するため、様々な場面で議論を深めていく。

【グループホーム】入所者5～9人の少人数を単位に共同生活を送ることで、より自宅に近い状態で介護を提供する施設。

【サテライトケア】サテライト型デイサービス＝既存施設を活用した日帰り介護のこと。

【地域ケアシステム】行政、企業、ボランティア、NPO、地域住民などが主体となり、その人に必要な保健、医療、福祉のサービスを身近なところで受けられるような仕組み。